



ジーアンドエスエンジニアリング

〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比叡3-24-0

Tel.092-481-3100

<http://www.gand.co.jp/>



山王公園地下駐車施設（福岡市）



八幡製鉄新幹線ロイヤルフロントビル（佐賀県）設計



大連宮小戸橋でメソ大橋（福岡市）設計



東京建設局から局長賞を2年連続で受賞

## ＝東京都建設局から2年連続で局長賞を受賞＝ 次世代を担う人材育成に注力し 使命感を持って“変革”に挑戦する



尾玉和久 社長

九州と首都圏で事業展開する建設コンサルタントの地場大手、ジーアンドエスエンジニアリング（福岡市、尾玉和久社長）は都市インフラの道路や河川、橋梁などの構造物の設計を官公庁から直接請け負い、数多くの実績を残している。創業から43年を迎える同社は昨年、尾玉和久氏が新たに社長に就任、事業環境を取り巻く変化を受け入れ、若い世代を中心とした働き方で建設コンサルタントの潜在力を追求し、従来の枠組みにとらわれない発想で変革期を乗り切りたいとしている。

### 地場トップクラス誇る 圧倒的な受注力と実績

同社は1973年（昭和48年）年に建設コンサルタントとして設立され、都市インフラと土木かせいな道路、橋梁などの調査・設計、測量や上下水道、河川、砂防、海岸などの調査・設計、測量、地質調査など元請け事業者として公共事業に注力し、さまざまな設計・調査を手掛けてきた。建設コンサルタントとしては地場トップクラスで、九州を中心に年間200億円に

もよぶプロジェクトを受注しており、こうした圧倒的な受注力により豊富な実績を誇る。

例えば防災関連では、福岡市の山王公園雨水調整池の設計が上げられる。これは地、地殻のような異なる空間をリビングにたまたびな異なる空間になっているが、ゲリラ豪雨などによる水害の脅威から都市機能を守るために造られた調整池で、貯水量は約3万立方メートル。近年、福岡市内を流れる御笠川が氾濫し、博多駅周辺が水没するなど甚大な被害を受けたおそれ、2014年に建設を受けた緊急洪水対策事業の一環として発注された設計業務を受注した。この実績を受けて福岡県春日市でも同規模の地下調整池の設計を受注している。

このほか、変わったところでは北九州市のJR小倉駅新幹線口にあるペダストリアンデッキ（空中回廊）の計設計なども手掛けている。歩道の屋根は太陽光発電のパネルが設置されており、そこで発電した電力は歩道の動力として使用される。福岡県形のイメージを具現化したデザインだといえるそうだ。

また、同社はもともと東京都調

そんな同社がいま取り懸かっている新たな挑戦としては、福岡県発注の「車中泊移動式水素ステーション整備実施設計業務」である。福岡県は産官による「福岡水素エネルギー戦略」を立ち上げると、全国に先駆けて水素ステーションの整備や燃料電池自動車、バスなどの運行実証など、水素関連技術の集積と人材育成を進めている。先ごろ福岡県で全国初となる移動式水素ステーションの整備が決定し、同社が受注した。実はこの仕事に応募する際、同社でも未経験であることから社内でも賛否両論あったという。尾玉社長は「誰もやったことのないことをやることに価値がある。建設コンサルタントという従来の枠組みからわかれていたのは今後の成長はない」と話し、ダーウィンの進化論になぞらえて「将来も生き残っていくには変わる意識が肝心」と力を込める。

業出身の経営トップである。建設コンサルの業界では技術者出身の社長が多い。その意味では異色である。しかし、経営出身の社長だからこそしらがみがあるという強みとなり、社内の長期的な意識改革をけん引することができる存在といえる。そんな尾玉社長を支えるのは強い危機感もある。

かつて公共事業が頼まれた影響などが直撃し、経営に陥ったことがあり、この時、当時専断だった尾玉氏はそれまで見据けていた尾玉氏に加えて、下請けの受注にも取り組んで、その結果、社内全体で意思疎通を促進することによって変化が、外注に出すのではなく内製を進めたこと、業績も10年連続で上り続けてきた（尾玉社長）といふ。

また、この時には「何、技術者のリストラをやりに乗り切った」とまで懸念したことがある。尾玉社長は「人材は会社の根、人材は世代交代の時に必要だが、ベテランの技術者が持つ経験やノウハウを若手に継承させていかなくてはならない。新卒者も積極的に採用している。若手、経験豊富な世代を担う若手の融合を成長の原動力としたいと考えた。

### 積極的な技術継承で 経験と若手を融合する

尾玉社長はなぜ「変化」にこだわるか。実は同社長は最初の営業

業しており、その後福岡市に本社を移した関係で、九州以外にも首屈一指を挑み続けているが、13年度、14年度と連続で東京都建設局から優良工事表彰を受賞するなど、関係でもその技術力は高く評価されている。

一方、今後の必要の広がりを見込んで、同社では橋梁などの点検・診断を行う「調査部」を立ち上げていく。高度成長期以降に建設された社会インフラの劣化化が加速度的に進行しており、国も社会インフラの長寿命化計画を策定し、維持・管理を推進している。同社はこうした劣化したインフラの延長寿命化、補修・修繕計画に関する業務を事業化していく方針だ。

尾玉社長は「九州のある地方に行った際、老朽化している橋梁があったが、維持・管理する自治体も良いアイディアを出さないでいることがわかった。当社の専門分野であり、使命を持つべき分野とした社会インフラの維持・管理の使命を背負っていく」と語る。

### 福岡県で初の移動式 水素ステーション設計